

放課後等デイサービス自己評価表

令和4年度
特定非営利活動法人とこっ子 Power to live

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点等
環境・ 体制整備	1	利用定員は指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			活動内容に応じて1階と2階に分けて行っている
	2	職員の配置(人数)や専門性は適切であるか	100%			定員10人に対して職員5~6人に対応している。(現在定員に達していないため職員4人体制)人数は足りており、資格を持った職員が現場で働いている。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置など利用児の必要に応じた配慮が適切になされているか	50%		50%	現在、事業所を利用するお子さんの中には特別な配慮を要する子がいないため、設置していないが必要に応じて検討している。スロープや手すり等の設置はないが、必要な児童が現状いない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			目標の設定を行い、それを周知して実行し、振り返りをして結果を享有している(全職員)
	5	保護者向け評価表等アンケート調査を実施して保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	100%			アンケートによって、保護者が不安に思っている点については、お便りや口頭にて説明するように努めている。
	6	この自己評価の結果を、お便りやホームページ等で公開しているか	100%			法人のホームページにて公開している。
	7	第三者(外部委託によるものや同職種、関係機関等の訪問、見学会等からのフィードバック)による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか	50%		50%	法人内の事業所を利用している子の保護者さんが多数非常勤で勤務してくださっているため、直接話を伺うことができる。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			法人内研修の機会も増えて、法人外でも個人の希望する研修への参加が叶って自己研鑽に励むことができています。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%			管理者が直接現場で子どもに接しているため、アセスメントに加えよりニーズや現状に沿った計画が作成されている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			タイムアウト等のマニュアルに沿って適応行動を示している。
	11	行事や活動プログラムの立案、共有、実施するための検討をチームで行っているか	100%			職員同士で担当の振り分けを行い、事前のチェックですり合わせをしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			子どもの課題や保護者のニーズをプログラムに取り入れるように意識している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じ課題を決め、細やかな支援を行っているか	100%			コロナ禍ではあるが、休日や長期休暇ならではの活動を取り入れ、自己決定
	14	子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	100%			個々の特性に合わせて、個別活動と集団活動をを組み合わせている。
	15	支援開始前に職員間で必ず打ち合わせをし、支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			出勤後、職員でミーティングを行い、活動内容その日の担当児童、留意点などを確認している。
	16	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	100%			非常勤の方には、特に気になったことがあれば、メモ書き等で知らせていただいている。
	17	日々の支援に関し正しく記録をとる事を徹底し、検証・改善に繋げているか	100%			リタリコへの打ち込みと同時に個人の支援記録をとっている。
18	定期的にモニタリングを行い個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	50%		50%	評価会議の時に目標を達成できたものに対しては、次の目標を、状況の変わらない物に関しては設定を下げたりしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動(自立支援・日常生活充実のための活動・創作活動・地域交流・余暇提供)を複数組み合わせることで支援を行っているか	50%	50%		コロナ禍ということも有り、地域交流の活動は薄くなってしまうが、室内で幅を効かせた活動ができるように取り組んでいる。	
関係機 関や保 護者 との連 携	20	学校との情報共有(年間予定下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等)を適切に行っているか	50%		50%	送迎を行っていないため、学校との情報共有は行っていない。
	21	相談支援事業所の(サービス)担当者会議に子どもの状況に精通した者が参画しているか	100%			実際に子どもと接し、支援している職員が参画している。
	22	就学前に利用していた保育園・児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		50%	50%	相談員の方とのやりとりはあるものの保育園等との直接のやりとりは行ったことがない。今後必要に応じて情報共有していきたい。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	50%		50%	現状、卒業生の中に障害福祉サービス事業所へ移行する利用者がいないため行っていない。(必要に応じて行う。)
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター、他の福祉サービスや医療機関等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	50%	50%		相談員さんとのモニタリング等を通じて情報交換をし、助言を受けることがある。研修の場は設けていただいている。
	25	利用者が地域の子どもたちや他の利用者のご兄弟たちと、活動や交流する(触れ合う)機会があるか	50%		50%	今年度、とこフェスを開催している。コロナ対策で他事業所のお子様と交わることはなかった。

	26	管理者や児童発達支援管理責任者は、自立支援協議会(常滑市の関係機関が集まり、地域課題の共有とサービスの整備を協議する会議)へ積極的に参加し、それを他職員へ共有しているか	100%			会議の中で都度、情報共有を行っている。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	50%		50%	日々の申し送りの時に、その日の様子に加え、保護者様が気になっていること等を共有している。保護者による送迎であるため、子どもの降所時に子どもの活動の様子や、良かったところ、気になったところを直接お伝えしている。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニングや知識付与の勉強会等、支援を行っているか	100%			毎月、保護者研修会を開催している。職員もともに参加しており知識を高めている。
保護者への説明責任等	29	管理者等は運営規程、支援の内容、利用者負担等を保護者の方へ契約時に丁寧な説明を行い、他職員もその内容について説明することができているか	100%			事業所に合わせた内容を丁寧に説明されている。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			助言が難しい場合は、他職員に相談したうえでお伝えしている。 自身での返答が難しい時には、上司に相談し、助言を受けている。
	31	父母の会(親の会)の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携(横のつながり)を支援しているか	100%			毎月、保護者研修会を開催したり、親の会に研修会や茶話会を開きコミュニケーションの場となっている。 親の会、保護者研修会、茶話会など活動の場が広がっている。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者にそれを周知し、苦情があった場合には迅速かつ適切な対応がとれる準備ができているか	100%			契約時に説明がなされている。苦情に対しては職員間での話し合いの元、上司に相談や報告がなされたうえで対応がなされている。 子どもや親に状況説明を行い、迅速な対応を行っている。
	33	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			毎月末に次月のお便りを配布している。内容は、防災訓練の様子であったり、行事の様子、(都度変更有)お知らせ等。
	34	個人情報に十分注意しているか	100%			日々の活動の様子はもちろん、防災訓練実施報告や親の会について等を発信している。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			保護者様には、直接口頭にて行う。電話、ショートメールにて細かくやり取りができるようにしている。子どもに対しては、視線や場所等に配慮している。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	50%	50%		現状、開所間もないため行えていないが、今後実習生の受け入れ等取り組んでいきたい。
	非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員はもちろんのこと保護者の方にも面談時や何らかの連絡ツールによる周知を図っているか	50%	50%	
38		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			
39		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%			虐待防止委員会での情報共有・虐待防止研修を定期的に行っている。研修内容も更新しながら、細かい部分にまで目を向け共有を図っている。
40		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	50%	50%		月に1回運営会議にて各事業所の身体拘束の事例を報告しあっている。
41		子どもの食物アレルギーの有無について聞き取りを行い、保護者の方や医師の指示等に基づく対応がされているか	100%			契約時に書類に記入していただき、食品を扱う活動を行う際には、事前に確認を取るようになっている。
42		ヒヤリハット事例集(記録)を作成して事業所内で共有しているか	50%	50%		ヒヤリハット事例があった際には、打ち合わせや振り返り時などに職員間で情報共有をおこなっている。